

月刊

地球が与えてくれた贈り物を大切にリサイクル社会の実現をめざしたい

No.135 2005.12

<http://www.recycledesign.or.jp>
Eメールmail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザイン

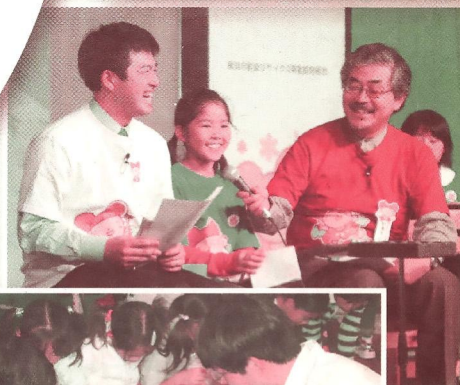
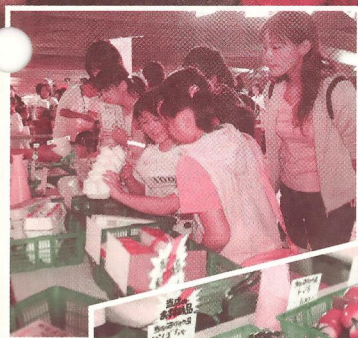
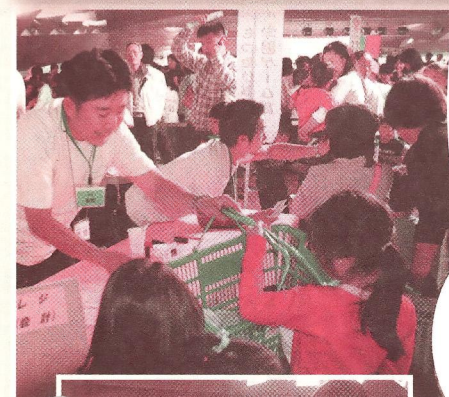
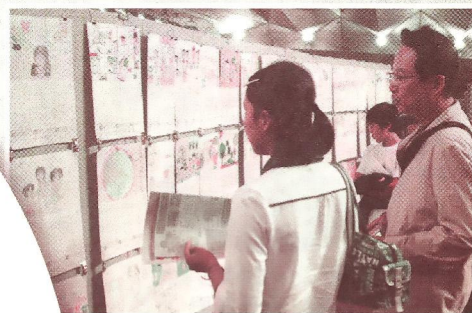
特集

第11回リサイクルデザインフォーラム

もったいない

って

何？



- 環境絵日記発表会・表彰式 P1
- 特別賞はこんなふうになりました！ P3
- 子ども環境会議
- 楽しさ盛りだくさんの会場の様子 P5
- “出前講師”特別版でおさらいしましょう P7
- Mr.Rの「出前講師」in箱根彫刻の森美術館 P9



第11回 リサイクルデザインフォーラム

もったいない って何？

子どもたちと一緒に、環境保護や省エネについて考えよう！と始めたイベント“リサイクルデザインフォーラム”

11回を迎えた今年は『もったいないって何？』をテーマとして、10月23日、大さん橋CIQプラザで開催しました。



横浜市資源リサイクル事業協同組合
理事長 秋元康男

今年2月に来日したケニア環境副大臣のワンガリ・マータイさんの発言*をきっかけに、もったいないという言葉が注目されています。そこで、夏休みを利用して自分の暮らしの中にどんな“もったいない”ことがあり、どんなふうに“もったいない”ことをなくす工夫をしているのか、横浜市内の子どもたちに考えてもらいました。その結果、過去最高だった昨年の1000点あまりを上回る5,250点もの環境絵日記が生まれました。その一点一点に、子どもたちの素直な視点や環境を守りたいという熱い思いがあふれています。当日は入賞した436作品を会場に展示し、ステージでは特別賞授賞式や子どもたちによる環境会議、遊びながらリサイクルや環境保護について学べる様々なコーナーなどを設けました。中田市長のスピーチや出前講師による授業もあり、盛りだくさんの一日となりました。まずは、特別賞に輝いた6作品をご紹介します。

ワンガリ・マータイさんの発言*

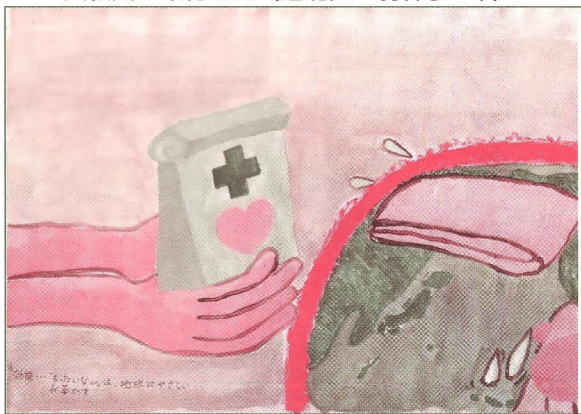
「もったいないは素晴らしい言葉。
世界にもったいない運動を広げよう」

環境絵日記発表会・表彰式

題名『私ができるやさしさ一錠』

大和田 茉穂さん（港北区・駒林小6年）

リサイクルデザイン大賞



駒林 小学校6年 大和田 茉穂
8月19日 金曜日 天気 晴れ
私は、毎日暑い日が続いているので、つついアイスを食べたり、エアコンをつけてしまいます。そんなとき、最近ニュースでよく見る、「地球温暖化」という言葉を思い出します。地球は今、重い病気にかかっています。みんなの地球だから、一人ひとりの力が、今の地球に最も必要な薬だと思います。そこで私は、エアコンの温度を一度ずつ上げて、地球に薬を一錠、一錠あげています。少しでも、地球を冷やしてあげたいと思います。☆「もったいない」は地球にやさしい薬です。

題名『何で捨てちゃうの？』

永原 悠里さん（戸塚区・戸塚小5年）

横浜市長賞



戸塚 小学校5年 永原 悠里
8月29日 月曜日 天気 曇り
おばあちゃんの家には、大根の葉がハンガーにかけてあります。かんそうさせて、いつでも料理に使えるようにするためだそうです。他の野菜やお肉にとくれます。とてもおいしいです。でも、スーパーでは捨てている人が多いと思います。まだ食べることができるキヤベツやネギやレタスの外側の葉が捨ててある事があります。捨ててある野菜を見ると私は、もったいないだけではなく、野菜や野菜を作ってくれた農家の人にも失礼だと思いました。

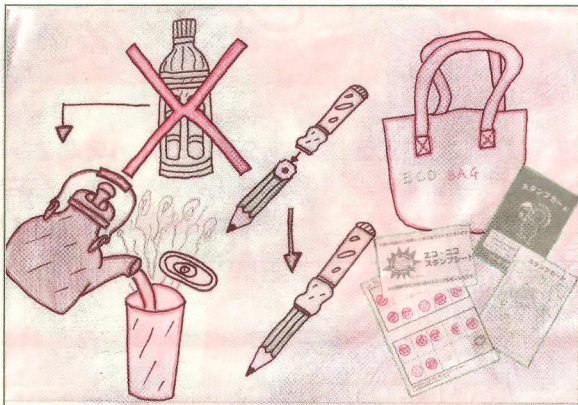
●「もったいないは地球のお薬」っていうのが素晴らしいですね。ぜひ、環境省にも使ってほしい言葉です。世界中で繰り返している天災をふまえ、「横浜から世界へもったいないの心を広げよう」というしっかりしたメッセージを伝えようとしているのがわかります。（横浜市資源リサイクル事業協同組合理事長 秋元康男）

●ごみは、一度ごみ箱に入ったらもうあまり触れたくないものですね。だから、入れる前にちょっと手を止めてきちんと分別しリサイクルしてください。環境に優しい生活をしてくださいね。今日はおめでとう、良かったね。ありがとう。（横浜市長 中田宏）

題名『私の家の“もったいない！”』

城 あかりさん（金沢区・西柴小5年）

横浜市市会議長賞



西柴 小学校5年 城 あかり
8月19日 金曜日 天気 晴れ
私の家では三つの工夫をしています。一つは買い物に行った時に、ポリ袋をもらわず自分の家からもってきた袋を使っています。二つ目は使い古して短くなったえんぴつを、えんぴつキャップをつけてふたたび使えるようにすることです。三つ目はペットボトル茶は買わず家でお茶をわかし、タッパというボトルにいれて持ち歩いています。私の家では「もったいない！」ということについて知り、考えるということを進めています。

●金沢区のG30はすごい。城さんのご家族や学校の先生も、みんなに表彰状を差し上げたいですね。これからがんばってリサイクルに励んでください。

（横浜市会 副議長 小幡正雄）



題名『バットケース』

埴 泰成さん（神奈川区・三ツ沢小6年）

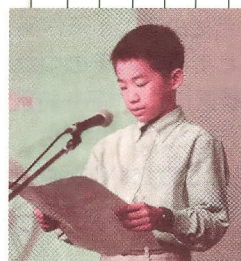
横浜市資源循環局長賞



三ツ沢 小学校6年 埴 泰成
7月21日 木曜日 天気 晴れ
僕はいつも公園で野球をしています。しかし、自転車でバットを持っていくのが大変でした。そこで、バットケースを買おうとしたのですが、もったいないので使える物がないかと家の中を探すと、穴のあいたジーンズとかばんのひもを見つけた。お母さんに頼んで、バットを入れて背負えるように作ってもらいました。

●お母さんに作ってもらったバットケースを大切にしていることが、よく伝わってくる作品です。こういうご家庭、良いですね。

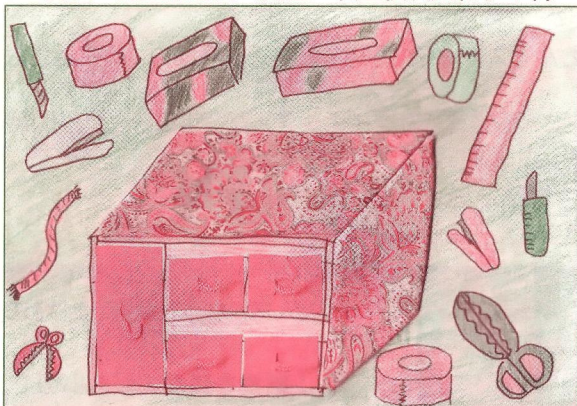
（横浜市資源循環局 局長 佐々木五郎）



題名『かわいいリサイクル小物入れ』

野口 万里奈さん（南区・私立横浜英和小4年）

横浜市教育委員会賞



私立横浜英和小学校4年 野口万里奈
8月26日 金曜日 天気 晴れ
私の使っている机の上には、小物を入れる引き出しがありません。だからずっと「引き出し」か「小物入れ」が欲しいと思っていました。良い大きさを引き出しがありませんでした。それで、自分で作ってみようと思いました。ちょうどニトリットのペットボトルが六本入っていた箱とティッシュケースの空箱がありました。そしてどういう型にしようか考えました。お店で売っていない型を作りたいと思いました。一番むずかしいのは、だんを作る所です。中にしきりをつけて引き出しがつぶれないようにしました。とても大変でした。でも、欲しかった大きめでかわいい布でできたのでとてもうれしかったです。お店で買わなくて良かったです。捨ててしまっタンボールやティッシュケースで、こんなにかわいい引き出しが作れてすてきなリサイクルになりました。

●文章がとても良く書けています。絵にはヒモや布を使っていて、立体的ですね。野口さんのような取り組みが、お友だちの間にも広がっていきますように……。

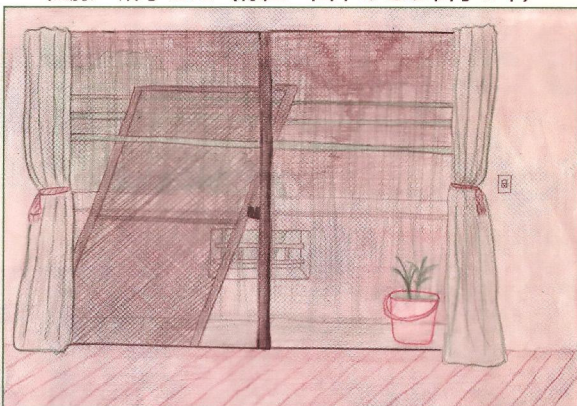
（横浜市教育委員会 学校教育部長 松永立志）



題名『雨を上手に使って……』

佐藤 麻子さん（緑区・山下みどり台小5年）

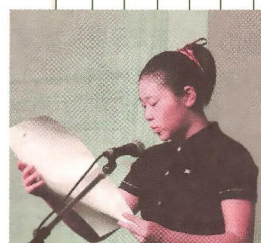
横浜資源化協議会賞



山下みどり台小学校6年 佐藤麻子
8月16日 火曜日 天気 雨
夏の夕方、おもしろい雨の音。夕立は、とても便利な掃除屋さんです。家では、カミナリが鳴り始めると急いでアミ戸をはずして物干しのさおの間に立てかけます。

●夏の夕立の情景が目につかびます。自然の恵みである雨で網戸を洗うなんて名案ですね。我が家でもカミナリが鳴ったらやってみようと思います。

（横浜資源化協議会 会長 小澤重男）



特別賞はこんなふうに決定しました!

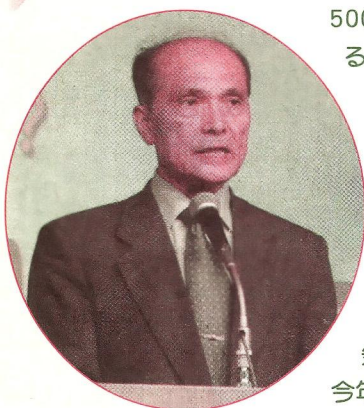
・月刊『リサイクルデザイン』7月号に、環境絵日記今年も募集!のお知らせを掲載。夏休みを前に、市内の小学校に案内状と応募用紙を発送。

・9月9日、環境絵日記の応募締め切り

・9月17日、公募した市民審査員の協力を得て、予備選考。通過した1,052作品を対象に選考基準に基づき投票を行ない、436作品を入賞と決定。

・9月22日、4時間をかけて最終選考会を行なった結果、環境絵日記選考委員により特別賞6作品が決定された。

選考委員代表・丸茂 高さんの総評



5000点を超す環境絵日記を審査するのは、正直言って相当の労力を要します。しかし、みなさんが送ってくれた作品は、絵も日記もすべて良い、素晴らしい。苦労の末、436作品を入賞として選び、その中からさらに厳選して6作品を特別賞と決定しましたが、本当に、どれも優秀をつげたい作品ばかりでした。今年のテーマに沿って選ばせていただきました。

私は、昭和21年に小学校1年生になりました。物のない戦後の時代で、今とは大きく様子が異なります。今、ごみの問題は地球環境すべてに関わる問題だと思います。このあいだ、今世紀末までに北極の氷はすべて溶けてしまう、とアメリカの研究者が発表しました。南極は大陸ですから、氷が溶けても大地がなくなることはありませんが、北極で氷が溶けたらそこで生きている動物たちはどうなりますか? たいへんなことですね。だから、地球温暖化をくい止めることを考えなくてはなりません。それには、なるべく物を燃やさないで永く大切に使うということが大切です。エネルギーのムダづかいも無くしましょう。これからも一生を通して『もったいない』という気持ちを大切にしてお過ごしていただきたいと思います。

子ども環境会議

特別賞受賞者のみなさんをステージに招いて、身近な環境について話し合いました。

進行役……山本耕平さん(株式会社ダイナックス都市環境研究所・代表取締役)
栗原清剛(フォーラム実行委員長)
参加者……大和田茉穂さん、永原悠里さん、城あかりさん、
野口万里奈さん、佐藤麻子さん



ふだん気になっていることはありますか?

城: 給食を残す人が多いので、もったいないなあと思います。

野口: 使い終わった教科書を、下級生に使わせてあげたら良いと思います。

山本: イギリスやアメリカは、教科書を使い回しているんだよ。

栗原: みなさんはふだん、環境保護のためにどんなことに気がつかっていますか?

を29度に設定したり、ティッシュをあまり使わないとか、こぼしたらふきんでふく、というようなことです。

大和田: エアコンの室外機から出る排水をお花にあげたり、エアコンの室温

栗原: 設定29度、すごいですね。よくも見習わなくちゃ。周りの人たちを見て、
佐藤: 5回以上洗えました。

栗原: あみ戸を雨で洗うっていうユニークな発想が素晴らしい麻子さんの作品でしたが、今年は何回ぐらい洗えたのかな?



今年の横浜市長賞のプレゼンター・ 中田市長から会場みなさんへのメッセージ

かわいい動物たちがいなくなるとか、そういうことを想像して行動に移してください。

みなさんはもちろん、G30という言葉を知っていますね。G30のGは、ごみ、減量のG。30は30パーセント。ごみを30パーセント減らすために行動しましょうというのが、G30です。これを、横浜市のみなさんに呼びかけています。実は、横浜市のような大きな町ではごみの減量なんてできない、計画通り進むはずがないと考えられていました。しかし、

とても順調に目標を達成できている。これはとてもすばらしいことです。物を大切にする、不要な物は買わない、紙袋もビニール袋ももらわない、というのが一番重要ですね。

これから、みんなで力を合わせてもともと横浜を良い市にしよう。互いに思いやりをもって暮らすこと、それは、いのちを大切にするということにもつながりますね。そういう暮らしのために、これから先もご協力をお願いします。

こんにちは。受賞者のみなさん、おめでとうございます。今日は、たくさんすばらしい作品を見せてもらってとても嬉しいです。『もったいない・G30』について少しお話をします。

今、森林保護や野生動物の減少など、いろいろな環境問題がありますね。みんなが大人になるころにも良い環境があるように、横浜では様々な取り組みを強めています。環境問題は何年も前から言われてきましたが、なかなか対策のための実行が伴わなかった。でも、行動しなくては環境が本当にダメになってしまうんです。大事なのは行動すること。みんなも、環境が壊れてしまったらおいしいお刺身が食べられなくなるとか、

中田市長に質問！コーナー

(会場からの質問に答えていただきました)

家ではどんな
“もったいない活動”
をしていますか？

まずは電気。もったいない！
ってすぐに言って、コンセントを抜いたり、だれもいない部屋のあかりを消したりしています。我が家では一番うるさいよ。G30を徹底的にやると、気持ちが良いね。それから、ぼくは食べ残さない。刺身のつまのダイコンも全部食べちゃう。

気になるのは、新聞の広告ですね。うちは職業柄4紙もとっているから、広告の量がすごいです。紙もきちんと分別してリサイクルしていますよ。



山本：うちでは、200リットルぐらい入る容器に雨水をためているんだよ。これを庭の水やりに使っています。雨水を使うようになると、雨が降ってもうれしい、晴れでももちろんうれしくて年中ハッピーだよ。

永原：うちには7羽の鳥がいるので、スーパーに、捨てられてしまう葉っぱをもらいに行っています。

山本：葉っぱ、捨てたらもったいない

よね。むかしはみんな“もったいない”っていう気持ちを大切に暮らしていたんだけど。

栗原：今日は、都合でもうひとりの受賞者の塙くんがここに出席できなかったけど、お母さんが作ってくれたバットケースのことを書いてくれました。お母さんが作ってくれた世界でたったひとつのものだから、今も大切にしています。とのことでした。

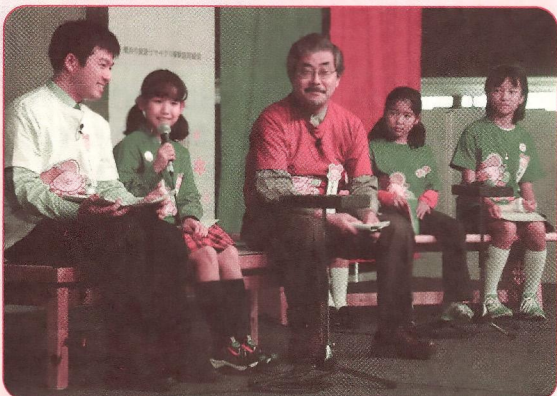


200年ぐらいの間の人間の活動が地球に与えた悪影響の、しっぺ返しみたいな形で襲ってきています。これから100年後に少しでも良くなってほしい、というくらいの永い目で見ても、これから環境を守る活動を続けていかなければいけません。みなさんの絵日記から伝わってくる“家族ぐるみ”という感じが良いですね。中学生、高校生になっても、今の気持ちを忘れないで下さい。

栗原：今日は、どうもありがとうございました。来年もよろしく！

(敬称略)

▶ おおぜいの観客の前に、少し緊張しながらも活発に意見を出してくれました。



山本：みなさん、良い意見をどうもありがとう。ここで出た意見をここで終わらせちゃ、もったいないですね。栗原さんに頼んで、市長に伝えてもらいましょう(笑)。地球温暖化はここ100年、

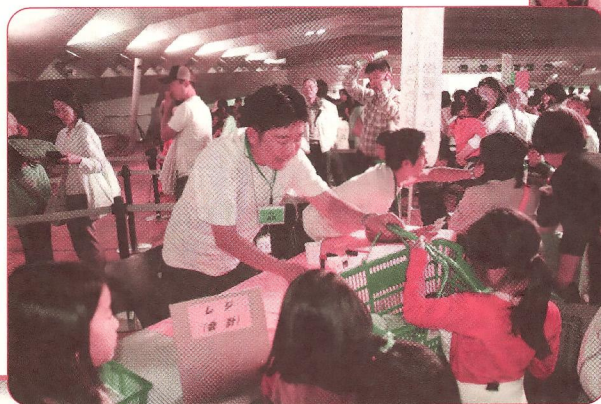
ゲームあり、体験教室あり、 環境絵日記の展示あり…… 楽しさ盛りだくさんの 会場の様子

会場には楽しいコーナーが盛りだくさん。ゲームやクイズで楽しみながらリサイクルについて学んだ子どもたちに、『もったいないの達人』認定証が発行されました。ちいさな環境保護活動家？が、これからもスクスクと成長してくれるように、来年も、さ来年もずっとフォーラムを続けていきたいと考えています。みなさんのご声援を頼りに……！



もったいない学習ゲーム

割り当てられた買い物メモにしたがって、品物を選ぶゲーム。賞味期限や量、過重包装でないか、詰め替え用か、再生品かどうか、などのチェックポイントに気をつけて買い物をするよう、スタッフがアドバイス。長蛇の列は、途切れることがありませんでした。



もったいないクイズ

省エネやリデュース（利用削減）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）に関する5つのクイズに答えるゲーム。水のムダをおさえる洗たくの仕方や、節電のコツ、リユースをすすめるヒントなどを盛り込んだクイズで、“使える”情報を持ち帰ってもらいました。



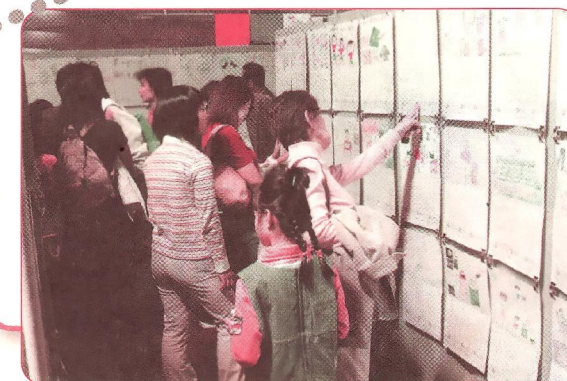
もったいない分別ゲーム

様々な古紙を種類別に分けるゲーム。ビニールの窓がついたティッシュの箱や、使ったティッシュ、ガムの包み紙（裏が銀色）、裏カーボン紙、発泡スチロールと一体になったボード、紙ひもなど。これらを『その他の紙』と『家庭ごみ』に分けるのは、大人にも結構難しかったようです。



リサイクルデザイン賞入賞作品展示コーナー

応募総数5,250点の中から選ばれた入賞作品436点を展示。捨てられないいわば、横浜駅前のイルミネーション、子どもたちの目は、家庭や町の中でたくさんの『もったいない』を見つめている、そんなことがひしひしと伝わってきました。

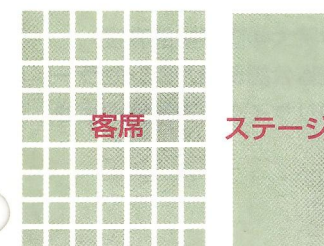


もったいない
学習ゲーム

もったいない
クイズ

もったいない
分別ゲーム

リサイクルデザイン賞
入賞作品展示コーナー



リサイクルデザイン賞
入賞作品展示コーナー
これまでの特別賞
受賞作品展示コーナー

入り口

リサイクル工作体験コーナー
(ナウシカの会)
理科実験コーナー
(理科～アインシュタインラボ)

スタンプラリーゴール
もったいないの達人
認定カウンター

リサイクルデザイン
オリジナルグッズ
販売コーナー

工作体験コーナー (ナウシカの会)

間伐材を利用することが、日本の森を生きかすことにつながる……という話を聞いたあと、間伐材から作ったキットを使ってレターケースを作りました。木っ端、ドライフラワーや、細かいガラスの破片（角が丸くなっていて安全なもの）、銅の粒などを思い思いに貼ったオリジナルのレターケースが生まれました。

*ナウシカの会について、詳しくは本誌132号をご覧ください。



「もったいないの達人」 認定カウンター

3つのゲームとクイズに挑戦して参加スタンプをもらったら、スタンプラリーゴールへ！
顔写真を認定証に貼ったら『もったいないの達人』の仲間入りです。

理科実験コーナー (理科教育研究所アインシュタインラボ)

楽しく理科の実験をしながら、リサイクルの仕組みを知ろうという授業。天然ゴムの一種であるラテックスに金網を入れたものをタイヤに見立てます。これを液体窒素に入れて急激に冷やしたあと、金づちでバーンと割ります。すると、ゴムと金網が分離するというわけ。金属が一緒になったままではリサイクルできないということに、子どもたちも気づいたようです。ゴムがつくられる過程や、液体窒素が気化するときのダイナミックな状態変化を体験するなど、理科実験のおもしろさを体験できた一日でした。



【お知らせ】幼児から中学生のための理科実験教室アインシュタインラボは、科学を通して心と学力を育むことを目的としています。現在、金沢区泥亀に教室がありますが、来春、市営地下鉄センター南駅から徒歩2分のところに新教室が開設になります。
◆お問い合わせは 045-784-6447まで。

横浜市の分別、 きちんと知っていますか？

“出前講師” 特別版で おさらいしましょう

呼ばれて飛び出てジャジャジャジャーン（古くてすみません）ってな具合に市内狭しと飛び回り、リサイクルについてしゃべりまくっているMr.リサイクルが、この日、ステージで特別授業を公開しました。市内全域で「10分別15品目」の取り組みを始めてから半年以上たちましたが、はたして、みなさん分別の方法を正確に知っているでしょうか。だいたいはわかるけど、わからないこともあるなあっていう人に、とても喜ばれた特別授業。そのレポートを少し。

まず、会場に呼びかけて分別体験をしていただきました。ごちゃっと積まれた様々なごみや資源となるものを、分別ボックスに分けてもらったのです。そのあと、Mr.リサイクルがひとつひとつ正しいに指導&解説。“紙”

番外編！

大人のパネルディスカッション

子どもたちがおおぜい集まってくる前の少し静かな会場では、大人による大人のためのパネルディスカッションが行なわれました。



テーマ：『ごみの処理責任はだれにあるのか』

パネラー：熊本一規氏（明治学院大学国際学部教授）

大内えりか氏（環境省公認環境カウンセラー）

進行役：武松昭男（横浜市資源リサイクル事業協同組合）

環境先進国と比較して



▲ 武松進行役

武松：まずは大内さんのほうから、ごみの処理責任はだれにあるのかということをキーワードに、お話をお願いします。

大内：私は15、6年前から海外の環境先進国と言われる国々の様子を見続けてきました。欧米諸国では、ごみを出さない気持ちにさせる仕組み作りが発達しているんですね。そのポイントは3つ。まずは拡大生産者責任、そしてデポジット制、最後に家庭ごみの有料化。

地球の将来のため、高い理想をかけた英知に富んだ政策だと思います。

熊本：一般廃棄物のごみ処理は税金でまかなうので、企業は処理しにくいものも平気で作ります。企業が変わっていくためには、処理費を負担させればいいんです。企業が処理まで責任をもつということを、拡大生産者責任といいます。ドイツなどと違って日本の容

器包装リサイクル法（容リ法）では、回収、洗浄、圧縮、梱包、保管までが自治体負担、つまり85%が税金なんです。そのあと、原料としてリサイクルする費用だけが生産者の負担。もっと企業の負担を増やすべきだと容リ法改正運動が起こっていて、これを全国の自治体が支持しています。

企業の責任って？

武松：具体的には、どんな企業努力が必要でしょうか。

熊本：まずはリサイクルしやすい、つまり素材別に分解しやすい設計にする

マークがついているのにリサイクルできない紙があることや、そもそもどうして古紙を種類別に分けなくてはいけないのか、どうして中国は日本の古紙を欲しがっているのか、そんな問題を出しては、参加した人に答えてもらいながら、授業は進みました。

最後は、資源物のヨコハマブランドを作りたい、質の良い資源となるものを作るために、市民のみなさんの協力をぜひ！という言葉で締めくくられました。



こと。あとは、できるだけ単一の素材で製品を作るのが良いです。

大内：今日の神奈川新聞に『天ぶら油で走る収集車』という記事が出ていて嬉しくなりました。スウェーデンのストックホルムのバスは、ワインで走っているんです。不要になったものはごみではなく資源だという考え方が、横浜にも芽吹いたんですね。欧米の環境先進国ではリユースが基本なんです。リユースのためにたくさんのメーカーで同じびんを使っていますが、比べると、日本はまだ法の整備が整っていません。

武松：リサイクル費用を誰が負担すべきなのか、という問題についてはどうでしょう。

熊本：みんなが負担するなら税金を使っても良いじゃないか、という人がいますが、税金負担はすべての納税者負担です。一方消費者負担というのは買う人が負担するということは、つまり買わない人は負担しない、公平感があります。環境省は経団連の要望を聞いて、

家庭ごみの有料化を進めろと躍起になっています。経団連は拡大生産者責任をものすごくいっています。経団連が求めているのはもうひとつ、プラスチックごみの焼却です。燃やしてエ

ネルギーとして利用しなさいと主張しています。

大内：拡大生産者責任と家庭ごみの有料化、その二つがそろって両輪とならなければ意味がありません。

循環型社会のための提案

武松：万が一、このままの状態でごみ処理・リサイクルが続けられてしまったら、どんな問題が発生するでしょうか。

熊本：家電リサイクル法はヨーロッパの影響を受けてできたんですが、ヨーロッパと違うのは排出時に運搬費用とリサイクル費用を取る点です。購入時に取らないと、不法投棄を招きます。製品価格の中に処理費を含めておくというのは、拡大生産者責任の一端でもあります。産業起こしのためにリサイクル法を作り、リサイクル産業を作っているのが日本です。これではごみ問題は解決せず循環型社会作りは進みません。



▲ 熊本さん

大内：日本はこのままだと焼却大国になってしまうでしょう。それを防ぐためにも、拡大生産者責任に日本が一日も早く取り組んでほしいと思っています。ヨーロッパではエコな物流、交通がテーマとなっています。日本でも、車より公共交通が便利だ、健康に良い、安い、環境に良いということに気づき、そういう方策を取り入れてほしいです。

武松：9月の下旬に横浜でもカーフリーデーを試みましたね？

大内：単に車の利用を抑えようというのではなく、騒音や大気汚染、のんびりと歩けない道の怖さ、車の多さについて考え、行動しようという団体やグループが力を合わせて行ないました。

武松：カーフリーデーは来年も開催するんですね。その時はまた、いろいろ教えてください。本日はありがとうございました。

(敬称略)

それ行け!

りくみちゃん【第12話】

1 いっぱい人がいるくみちゃん

みなさん!!
ワタシは只今、
「リサイクルデザインフォーラム」
に来てますくみ!

りくみちゃん
かわいいな〜

2

地球にずっといるの?
うちにも遊びにおいでよ!りくみちゃん!

〜!りくみちゃん
って、小さくて、
カワイイね〜

意外に有名な人
になっていて、本人
が驚いている...

3

こ...今年は、「もったいない達人の認定証」とか、りくみの絵の入ったシャペンやTシャツとかのグッズも色々作ってみたいよ〜!えへ〜

〜! 来年も
楽しみだぞ〜!

4

おっす!

がんばれ〜

フォーラムは無事に終わった瞬間から「来年への一歩」が始まっているくみよ!

作・勝野真美

「出前講師」 in 箱根彫刻の森美術館

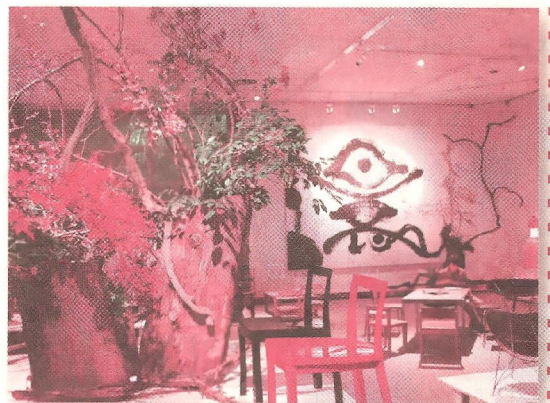


山の木々が色付き始めた11月上旬、箱根でおこなわれた「職人の森展2005」に行ってきた。ピカソやヘンリー・ムーアの作品が立ち並ぶなか、日本の建具、畳、表具などの作品が展示されていた。作ったのは芸術家ではなく職人と呼ばれる人たちだ。彼らは「家は買うモノではなく建てるモノだ」と言う。「昔の家は解体しても捨てる場所が無かった」とも言う。なるほど柱などは次の家に使い回しできるし、畳なども全て土に帰る素材でできていた。江戸の昔は世界がおどろく循環型社会だったと言われているのもうなずける。

そんな彼らに共感した書道家の武田双雲氏が、このイベントで『頭に浮かぶイメージを楽しみながら表現し、のびのびと「書」を楽しむワークショップ』をおこなった。今回、その「頭に浮かぶイメージ」づくりのために、私がリサイクルの話をしてもらった。

「職人」と「書」と「リサイクル」。一見まったく関係ない組み合わせに思える。しかし、「リサイクル」を「もったいない」という言葉に置き換えてみると、なぜだか妙に馴染むような気がするの私だけだろうか。

さてさて、写真は武田双雲氏が書いた「環」の文字と、ワークショップの参加者がリサイクルの話を聞いて「頭に浮かぶイメージ」を書いた作品です。貴重な経験をさせていただいたことを職人さんたち、武田双雲氏、参加者の方々に感謝します。私がどんな話をしたのかは、皆様のご想像にお任せするという事で……。



牛乳パックから生まれた紙ひも **山結くん**

古紙をしばればまるごとリサイクル

1巻きの長さ90m		価格(税込)	送料
バラ売り		1巻230円	1〜6巻400円 7巻〜 600円
箱売り (1箱50巻)	1〜9箱	1箱10500円 (1巻210円)	価格に含まれます
	10箱〜	1箱 8500円 (1巻170円)	

販売して下さるお店募集中!

お申し込みお問い合わせ
横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL045-444-2531/FAX045-444-2532

※振込手数料をご負担ください

トイレットペーパーは再生紙があたりまえ。
だってトイレに流しちゃったら再生できないんだから

**リサイクルボーイ
トイレットペーパー**



事業所、学校等はもちろん、お友達と
分け合ってもお得!
(横浜市の支出命令書も使えます)



★使ってびっくり
シングル芯なし130メートル
1パック(6ロール)
あたり価格441円

注文受付は
1ケース(48コ入=6コ入りパック×8)より
1ケース 3,528円(消費税・配達料込)
※振込料はおお客様のご負担でお願いします。

お申し込みお問い合わせ
横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL045-444-2531
FAX045-444-2532

イベント会場の ごみ減量作戦 どうしていますか？

秋たけなわの10月、横浜市では各区で区民まつり等のイベントがにぎやかに開催されました。イベント会場ではどこでも模擬店が出店され、大にぎわい。ここで使用される容器の分別はどうなっているのでしょうか。保土ヶ谷区と西区の場合取材しました。

ほどがや区民まつり

「フィルムをはがして捨ててね」 エコ容器でごみゼロをめざす



会場の保土ヶ谷へそ広場星川グラウンドでは、100余の参加団体のテントのほかに多数のフリーマーケットが出店。大にぎわいの中、保土ヶ谷区ごみ減量推進担当山田係長に案内されたのは、分別箱がズラッと並んだ容器収集場所。焼そばや豚汁を食べ終わった人が容器を捨てに来ると、「はがして、はがして」とボランティアの声がかかります。今年区民まつりでは模擬店で使われるトレーをエコ容器にして、今までごみになっていた容器を回収、リサイクルして大幅なごみ減量を目指しています。

エコ容器ってなに？

エコ容器とは発泡スチロールのトレーやおわんの使用する面に薄いフィルムが貼られていて、使い終わったら汚れたフィルムをはがすときれいな状態になる。フィルムはごみに、容器は洗わなくてもそのままリサイクル

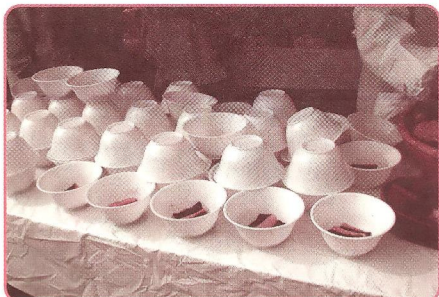


の原料になり、近々工場が稼動する予定の区内の障害者作業所で、分別したトレーなど発泡スチロールをペレットにします。

今回初めての取り組みで、会場に3か所の収集場所を設けています。貼られたフィルムには「ヨコハマはG30」の文字やエコ容器作成に賛同し、コスト負担をした企業名が印刷されています。ごみ減量リサイクル推進と企業広告と障害者支援の一石三鳥のエコ容器です。

西区民まつり

リユース食器を使って2年目です。



西区の今年のまつりの目標は「ごみの出ないまつり」です。使い捨て容器を減らすためリユース（再使用）食器の利用を進めています。昨年からまつりに来る区民には、自分の食器の持参を呼びかけていますが、なかなか徹底しません。そこで「ごみを出さない」ために、模擬店では

硬質プラスチック製のリユース食器を使っています。

模擬店はあらかじめ、使うリユース食器の数量を申請し受け取っておきます。会場で食べるものはリユース食器とリユース箸を使います。来場者は食べ終わったら、リユース食器の回収所に食器と箸を戻します。そこでは区内のボランティアの人たちが受け取り、残飯を捨てさっと洗って返却の箱に収めています。

「昨年初めて取り組んだ時の区民の反響はとても良かったので、今年も西区の他のまつりでもこのリユース食器を利用しました。」



と話すのは西区資源化推進担当の加藤係長。「リユース食器レンタル事業のNPO法人スペースふうから食器をかりて、模擬店等を行っていただきました。」

休憩所でおでんを食べていた数人の区民に訪ねたところ皆さんすっかりこのリユース食器に馴染んでいました。



RECYCLE Design

リサイクルデザインのロゴマーク

2つの円形は血管を表しています。右の赤い円形が動脈、左のにじんだ円形が静脈。私たちは、産業界全体の中の静脈部分を扱っていますが、静脈の正常化だけでなく、動脈の正常化も同時に目指していきたいと考えます。

●リサイクル標準価格表

2005年10月現在
日経10/27

品名	買入価格	業者の売値
	1キロ当たり	1キロ当たり
新聞	*** 0円	5円
雑誌	** 0円	3円
段ボール	** 0円	3.5~4円
衣類くず	** 設定不能	0~1円
アルミ缶	**** 10~15円	
小学校アルミ缶回収	40~60円	

*集団回収には「買入価格」を適用 **有料

有料の場合あり *スチール缶と選別済の価格

★500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。

取引条件により多少変化します。

★事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。

事業所ごとに業者と直接ご相談ください。

★集団回収以外の段ボール回収は、1回3000円以上の手数料がかかります。段ボールは必ず束ねて出してください。

★小学校アルミ缶回収は、100kg以上の場合、小学校のみ適用。専用の回収袋を使用。現金化のほかにも車いす(250kgで)にも交換できます。

INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

第11回リサイクルデザインフォーラムも皆様のおかげで、大きなアクシデントもなく、終了することが出来ました。今年も、会場イベントエリア、ステージイベントエリアの2部構成での開催となりましたが、当日は、4600名を超える沢山の方々にご来場いただき、10カ月の間準備を重ねてまいりました実行委員一同、大変うれしく思っています。また、環境絵日記にも5250作品という過去最多のご応募を戴き、心から感謝申し上げます。

私たち実行委員の目標は、イベントを成功させることだけではありません。イベントに参加していただいた皆さんと、将来、一緒に良い環境行動都市・横浜をつくる事も大きな目標です。このイベントが、そのきっかけの場となれば幸いです。今回得た反省と希望を胸に、また来年も、皆さんに喜んでいただけるイベントを作りたいと思います。皆様のご理解と協力をよろしくお願い致します。本場にありがとうございました。

編集室から

牛乳パック100%の リサイクルデザイン・ ボックスティッシュ

一度使ったティッシュはリサイクルできず、
ごみになってしまいます。だからこそ、
ティッシュペーパーには再生紙がおすすめです。

価格表

1~4ケース	1ケース 3,675円 (送料・税込)
5~10ケース	1ケース 3,570円 (送料・税込)
11ケース以上	1ケース 3,465円 (送料・税込)

(1箱200組400枚入り/1ケース50箱入り)

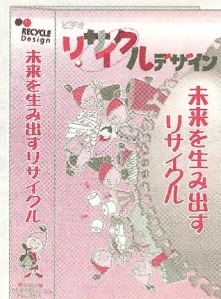
注：ご注文は1ケース以上でお受けします。

注：市外へのお届けは別途送料がかかります。

ご注文はFAX 045-444-2532

リサイクルデザインのビデオ 「未来を生み出すリサイクル」

このビデオは、暮らしの中から出る資源物(古紙・空き缶等)がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等にご活用ください。



詳しいことは

横浜市資源リサイクル事業協同組合

TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532

月刊リサイクルデザインは次の場所に置いてあります

●マリンスポーツデスク・リップル(鶴見日新ビル2F) ●グリーンバザール(南区六ツ川) ●地酒 篠原屋(港北区篠原) ●神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店 ●損保ジャパン横浜支店 ●東京ガス環境エネルギー館 ●マルエツ井土ヶ谷店・大倉山店 ●相鉄ローゼン三ツ境店・港南台店・大口店・二俣川店・緑園都市店・いずみ中央店・山手台店・白根店・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いずみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・ひかりが丘店・希望が丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安店・十日市場店・上星川店 ●マイカル天王町サティ店 ●ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店 ●カフェ杜(港北区日吉) ●きまき舎(緑区霧が丘) ●うどんカフェ(青葉区こどもの国) ●リサイクルショップ「トロワの森」 ●横浜国立大学生協同組合大学会館店・工学部店 ●神奈川県中小企業団体中央会(中区尾上町) ●リセールショップ遊民 ●WEショップ旭 ●WEショップかながわ大口店 ●WEショップかながわ六角橋店 ●WEショップこうほく ●WEショップほどがや天王町店 ●WEショップちがさき店 ●WEショップちがさき十間坂店 ●リサイクルショップブランカスタ(西区)

月刊 リサイクルデザイン No.135

発行日：2005年11月25日

発行人：秋元康男

編集人：工藤健一

編集室：戸川孝則・竹澤留美

広報企画委員会：山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継

杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛

栗原清剛・大内 敦

発行所：横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒221-0054

横浜市神奈川区山内町13番地

TEL 045-444-2531/FAX 045-444-2532(編集室)

制作：(企) エコ・アド

印刷：(株) 横浜プリント